

第6学年 国語科学習モデル指導案

1. 単元名 「相手や場面に応じた言葉を使おう」

2. 本時について

(1) 本時の目標

○相手や場面に応じた言葉の使い分けに気づき、適した言葉遣いをすることができる。

(2) 本時の展開(最後の15分の展開)

分	教師の支援	学習活動
1	<p>☆ワークシート『言葉を使い分ける』ってどういうこと?』を配付し、相手に応じた言葉遣いの違いに気づかせる。</p>	
7	<p>●場面1【①縦割り給食】と場面2【②サッカー一部の試合後】の言葉のやり取り(会話)から、年上の人に対する言葉遣いについてその使い分けに気づかせる。</p>	<p>T: ①と②の場面での言葉遣いはどうですか。 C: 1年生はよくこんな言い方するね。 C: 1年生のまさるさんは普段の友達に話す話し方と同じだね。 C: 1年生だからまだ言葉の使い分けは難しいのかもしれないね。 T: 縦割り給食では、1年生も6年生も同じような言葉遣いをしていますね。 T: ②の場面での会話はどうか。 C: ②では、2年生の山内さんは先輩に対して丁寧な言い方をしているよ。</p>
9	<p>●場面3【③休み時間の職員室】の校長先生と大川先生の会話から①②との違いを気づかせ、よりよくかかわるために相手に応じた言葉遣いができるようにする。</p>	<p>T: ③ではどうか。 C: ③では、校長先生も担任の大川先生に対してきちんとした言葉遣いで報告しているね。 T: 中学校の部活や活動の中では、先輩に対してきちんとした言葉遣いをしていることが多いのですね。そして大人の社会では、お互いに丁寧な言葉を使う場面もあります。</p>
12	<p>☆キャリアの宝につながる解説(児童への落とし込み)をする。</p>	<p>T: 身近な大人の人に聞いてみてください。きっと目的や相手、場に応じた言葉遣いをされているはずですよ。 C: うちのお兄さんは、この間会社の部長さんに電話で、丁寧な言葉で報告していたよ。</p>
<p style="color: red;">社会の中では連絡・報告・話し合いなどの場で、目上の人や相手の立場を敬って、より正しい言葉遣いをしなくてはいけない場面がたくさんあります。目的や相手、状況を考えて、場面に応じて言葉を使い分けることが大切です。実際に、生活の中で場面に応じた言葉遣いができることが、よりよい人間関係づくりにつながります。</p>		